



皆さまからの原稿募集中です

### 環境先進国スペインに学ぶ

富士山大好き！百人の会  
太神楽師・鏡味 仙三



アメリカ・ニューヨークへと行って参りました。スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島での見聞を、私たち富士山クラブの今後の活動ヒントになればと思います。環境保護の観点からレポートいたします。

5月24日朝7時にテネリフェ島に接岸、港近くはとんがった丘が多く、その奥にはお目当てのテイデ山がかすかに見えました。さあ、約30人で「テイデ山遠望観光」ツアーに出発。街には、紫の花シヤカンダが咲いていました。現地在住の日本人ガイド鈴木さんは好感のもてる方で、歴史、自然、文

化まで幅広く島のことを語ってくれました。この街は冬でも最低気温は15度ほどで、一年を通じて花が咲き、とてもきれいな島だそうです。欧米（ノルウェー、スウェーデン、イギリスが多い）から寒さをしのぎに大勢の観光客が来島し、宮城県とほぼ同じ面積7447平方キロメートル・人口約200万人のカナリア諸島に、何と年間1250万人も来ているとか。日本はまた、年間1000万人も達していないのに、スペインは観光立国なのだと認識。また、島民約80万人のテネフェリ島には総合大学があり、約6万人が学び、若い人もたくさん住んでいます。

テイデ山（標高3718m）は、カナリア諸島7つの島の最高峰、イベリア半島本土を含めたスペイン最高峰でもあり、（本土最高峰は、標高3481mのボラセン岳）、大西洋にある山の最高峰です。海洋性気候のため、日本に比べると雪が少なく、積むことはあまりありません。1907年を最後に現在まで噴火はしていませんが、ここは火山灰や溶岩で出来ている火山島で、サトウキビやペルー原産の40種類に及ぶジャガイモなどが特産物です。また、牛の飼育も盛んに行われています。山の形は複雑で、1日で20度以上も気温が変化することがあります。同じ場所でも、霧、雨、雪、晴れと様々な表情をみせ、ふもとの樹林帯は曇りや雨でも、その上は晴れのことがあります。テネリフェとは、先住民の言葉で、「雪」の意があるそうで、イギリスの自然科学者・ダーウインも雪のあるテイデ山を絶賛していたそうです。

さて、バスに乗ること30分。森林地帯が現れました。海拔500〜1500mは、島の北側の海から水分を多く含んだ空気が山にぶつかり、雲をつくります。豊かな水分

があるため、森林限界の標高1700mぐらゐまでは固有種のカナリア松が森林帯を形成しています。この松は葉が長く水分が豊富なため山火事に強く、また成長も早いので、仮に火事で燃えたとして、10年もすれば元に戻ります。松には、とろろ昆布のように糸状に長く垂れる、サルオカセがよく見られましたが、これも水量が豊富な証拠。さらに、標高が上がるるとハイマツが多くなりました。松をはじめ、いく種もの木々を大変な労力をかけて植林され、土地の浸食を防いでいました。港を出てから1時間。チペケ展望台（標高2200m）に到着しました。180度の大パノラマは格別。下に見える雲海は、綿飴のようで、その上を歩きたくなりました。再びバスに乗り10分ほどで、標高2100mの展望ポイントへ。テイデ山が間近に見え、近くには、火山灰が層をなしている壁。それはまるでティラミスのようで、とても美味しそう（笑）。その高さは20m、この山の長い歴史を感じました。きれいに咲いた黄色いハネノバという花が、火山灰に根を深く下ろし、壁が崩れるのを防いでいました。

さて、バスが何台も次から次へと上がってきます。中には、バスから折り畳み自転車を下ろし、サイクリングする欧米人の姿も。この山は、沢や川がないため本格的な登山をする人は少なく、ハイキングが盛んで、140種ものテネリフェ固有植物を日帰りで楽しむそうです。豊富な花には150万匹のミツバチが生息し、ハチミツがたくさん売店にありました。裏手にあった植物公園では、トカゲがたくさん見られ、専用の水飲み場まであり、大切にされていました。様々な色や形をした、見たことのない草花に感動しました。このような素晴らしい自然は、長い年月

と地元民により守られてきたと、ガイドの鈴木さんは語ってくれました。ご



み箱（右写真）は景観を守るため、火山灰と同じ茶色で、風に飛ばされないよう地中に埋め込まれていました。そして、観光地化し過ぎて汚されないよう、山小屋のようなものではなく、施設には太陽光パネルを屋根に取りつけて自家発電をし、トイレも水を施設内で浄化し循環させています。用を足しても、紙は流さずに、個室にあるゴミ箱に入れるよう徹底されていました。私たちが港からバスに乗車したとき、「ごみはお持ち帰りください、草花は採らないで下さい。撮るのは写真だけ」と何回も言っていました。スペインの観光業は環境をしつかり守ることを第一にしながら、利益を追求しているのだと思いました。何度も、「山に来る人のモラルが第一」、「子どもの頃から環境教育が必要」と、貴重なお言葉も頂きました。静岡県からも視察に来たと聞きました。私はごみ一つないテイデ山一帯の自然保護地区を訪問し、富士山が見習わなければいけないところが多々あると感じました。

スペインは国として、国立公園の保全に力を入れ、テイデ山は2007年に、世界自然遺産に登録されました。日本人はテネリフェ島の人々に学び、もっと自然を愛し、森をまもる活動をすべきだと感じました。「環境」と「観光」を車の車輪の如く、うまく両立していくことが必要だと思います。富士山クラブ一員として、そして、さまざまな大使として見聞を生かし行動していきたいとあらためて決意しました。